

## 8月月例労働経済報告のポイント

### 一般経済

- 景気は、厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
  - ・ 輸出、生産は、持ち直している。
  - ・ 企業収益は、極めて大幅に減少している。設備投資は、大幅に減少している。
  - ・ 雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。
  - ・ 個人消費は、このところ持ち直しの動きがみられる。
  
- 先行きについては、当面、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、在庫調整の一巡や経済対策の効果に加え、対外経済環境の改善により、景気は持ち直しに向かうことが期待される。一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念される。加えて、世界的な金融危機の影響や世界景気の下振れ懸念など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

### 労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。
  - ・ 6月の完全失業率（季節調整値）は5.4%で、5ヶ月連続で前月差で上昇（0.2ポイント上昇）。
  - ・ 労働力人口（原数値）は6,648万人で、4ヶ月連続で前年同月差で減少（68万人減）。
  - ・ 就業者数（原数値）は6,300万人で、17ヶ月連続で前年同月差で減少（151万人減）。
  - ・ 雇用者数（原数値）は5,455万人で、4ヶ月連続で前年同月差で減少（110万人減）。
  - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.43倍（前月差0.01ポイント低下）。
  - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.76倍（前月差0.01ポイント上昇）。
  - ・ 現金給与総額（原数値・速報）は430,620円で、前年同月比7.1%減。